

村山槐多の文章「坑内が一等面白った」、挿絵四点、関連写真一枚

● 出典

無署名「本社主催壮快旅行感想記」（『武侠世界』第三卷第一〇号、武侠世界社、一九一四年九月一日、三三〜四三頁、目次では執筆者名が「隊員一同」になっている、写真撮影者不明「本稿四頁参照」、村山槐多挿絵「本稿三頁参照」）

● 寸法

三三頁の写真 五・九五×七・四五センチメートル

三五頁の挿絵 九・七五×九・二五センチメートル

三七頁の挿絵 九・〇〇×七・三〇センチメートル

三九頁の挿絵 九・四五×^{（註）}約八・五〇センチメートル

四一頁の挿絵 八・七五×七・〇〇センチメートル

〔註〕

この寸法を「約」としたのは、測りにくいため正確でない可能性があるからである。

●解説

『武侠世界』第三卷第一〇号に、「本社主催壮快旅行感想記」という題の下に二十一人の文章が載っている。すなわち、遠藤盛弥「人間は倫理的動物である」(三三〇～三四頁)、冷灰「旅中偶成」(三四頁)、森岡一成「此意気を見よ！」^(註一)(三五頁)、小島靖弘「遺憾千万なり」(三五～三六頁)、鶴岡生「愉快に且つ有益に」(三六頁)、村山槐多^(註二)「坑内が一等面白つた」(三六頁)、榊原栄一「最も愉快だった事」(三七頁)、城所豊蔵「僕の感想」(三七頁)、石川金五郎「僕等の大失敗」(三七～三八頁)、太田孝「印象のかずく」^マ(三八頁)、民徳「壮快旅行と教育者」(三八～三九頁)、和田生「湖畔朝飯の記」(三九頁)、しげを「狂句とりぐ」(三九～四〇頁)、西川独居子「一行の健児諸君へ」(四〇頁)、鶴田天材「他に見られぬ旅行」(四〇頁)、東條旭「毎年挙行を望む」(四〇～四一頁)、太田忠「湖上の清遊」(四一頁)、池谷生「永久に記念せん」(四一頁)、青戸如風「三国同盟の成立」(四二頁)、奥村二秋「作戦計画滅茶滅茶」(四二頁)、松本芳山「乗りおくれの記」(四三頁)である。

この旅行については、「村山槐多の関連写真二枚(「本社主催壮快旅行」)において詳述している。^(註三)表題の「本社」は『武侠世界』の発行所である武侠世界社のことだろう。

四点の挿絵の作者は明記されていないが、いずれも「Kaita」というサインが書き込まれており、村山槐多の手になるものである。どの挿絵も原画が現存するかどうかは不明であり、詳細な制作時期も分からないが、一九一四（大正三）年八月一九日までには描かれていたと思われる。^{（註四）}

三五頁の挿絵には「河童連中カッパ（註五）禅寺湖に泳ぐ」と書かれている。一行が中禅寺湖で泳いだ際のことを描いたものと思われるが、それは三日目（一九一四年八月八日）の出来事である。^{（註六）}したがって、この挿絵は一九一四（大正三）年八月八日から一九日までの間に描かれたということになる。

三七頁の挿絵には「藤村操のとびこんだ岩（華巖）^{（註七）}」、三九頁の挿絵には「華巖滝壺」^{（註八）}と書かれている。一行が華巖の滝を見たのは三日目^{（註九）}なので、以上の二点の挿絵も一九一四（大正三）年八月八日から一九日までの間に描かれたということになる。三七頁の挿絵の中央に描かれた人物と三九頁の挿絵の右端から二人目の人物は、同号の口絵に載っている華巖の滝と押川春浪の写真^{（註一〇）}における押川と服装が似ているので、彼である可能性があるだろう。

四一頁の挿絵には「大村のシャツ臭気粉々^{マダ}皆々にげ出す」と書かれている。「大村」とは旅行の参加者である大村一蔵のことだろう。参加者が書いた旅行記と感想文の中に大村のシャツに関する記述はないので、何日目の出来事であるのかは分からない。ただし、鶴岡生（鶴岡春三郎）の感想文の中に「汗に汚れた臭いにはほひを残しつつ、一同は溝泥の中（註一一）から這ひ上つたやうな風体をして進んで行つた。」という記述があるが、これは大村に限ったことではなく、また、具体的にいつのことなのかについても書かれていない。したがって、この挿絵は初日の一九一四（大正三）年八月六日から一九日までの間に描かれたと考えるべきだろう。

三三頁の写真「庚申山「見晴」に於ける一行」の「見晴」とは、庚申山にある天下見晴のことかと思われる。しかし、参加者が書いた旅行記と感想文の中に天下見晴への言及はないので、一行が庚申山にいた初日（一九一四年八月六日）か二日目（七日）に撮影されたと考えるべきだろう。写真の撮影者は無表記なので不明だが、もしかしたら大村一蔵であるのかもしれない。^(註一一)この写真には槐多が写っている可能性があるが、各人の顔が見えにくいので、実際に写っているかどうかは不明である。もし写っているのだとしても、どの人物が槐多であるのかは分からない。

執筆者・発行者 植田智晴

二〇一三年二月二〇日 初稿発行

二〇一三年六月二二日 第二稿発行

二〇一三年十二月一七日 第三原稿発行

© UEDA Tomoharu 2013-2023

この PDF の無断での転載、複製などは禁止とさせていただきます。